

339

520

群  
山  
安  
米  
内



始



郡山案内



小引

本書ハ主トシテ稿本郡山誌ニヨリ更ニ著者ノ周到ナル校閲ヲ經テ編纂シタルモノナリ  
本書ハ汎ク郡山ノ概況ヲ紹介スルヲ以テ主眼トス然モ各種ノ方面ニ於テ郡ト相關聯スルニヨリ記事亦郡ニ及ブモノ少カラス。  
本書ノ編纂ハ餘リニ急ニシテ材料ノ蒐集意ニ任セズ、遺漏多カラシ、是偏ニ大方ニ謝スル所ナリ。  
本書完成ノ榮ヲ得タルハ偏ニ國分清流島山三次郎兩氏及在京永井破笛氏ノ熱心ナル指導ト聲援トニヨル茲ニ特記シテ其勞ヲ感謝ス。  
大正三年十月

編者識

大正  
3. 11. 5  
内交

目次

一 岩越鐵道全通所感	一〇二			
一 總叙	九一三			
一 位置	地勢	町形	戸數	面積
一 人情風俗	發展の因			
一 各説	安積郡	安積及郡山の往古		
一 公私事業				
其一 殖産事業				
其二 教育風俗				
其三 衛生				
一 汽車鐵道貨物發着數(表)				
一 名勝舊跡				
一 挿入寫眞(二十四圖)				
	三〇八			
	四三二			
	四三三			
	四三四			
	四三五			
	四三六			
	四三七			
	四三八			
	四三九			
	四四〇			
	四四一			
	四四二			

録岩越線全通所感代叙

(1) 世の多幸期待せる岩越線は今や全く開通せられたり、本線は東北本線我郡山を起點とし、猪苗代湖畔に沿ひ會津地方より阿賀野川の峽谷を送迎して越後に入り、新津にて信越線に連絡す、郡山新津間百八哩餘、新津より新潟には十哩六分のみ私設會社時代より算ふれば十九年の星霜を閲みしぬ、巨額の工費と多大の努力とによりて爰に達せるを想ふべし。交通運輸の便なるに至りては實に著大なるものあり、郡山新津間三百五十二哩餘なりしもの其二百三十三哩を短縮し、時間約二十一時間以上を要し、もの約十四時間を短縮し則七時間にして新潟に達すべし、又京濱地方より新津新潟方面に赴くに、哩程は僅に入哩餘の短縮に過ぎざるも、信越線の如き急勾配少く纔に湖畔の一部に四十分一の勾配あるに過ぎざれば時間に於て約三時間を少うすべし。而して郡山上野間は六時間乃至七時間のみ。』經濟上の關係に至りては今後兩地方の互に交通來往を重ぬるによりて發展を期すべし、相互の情況は交通の不便なりしによりて未



(2)

全く洞通せずと雖も風土氣候の差違其他各地方の特性特質より來る需供の交易は必ず將に盛に開通せらるべし、蓋し越に海産、鑛産、機織其他幾多豊富の物産あり、岩磐亦工業、農藝、漁牧其他無限の生産あり、彼に優りて我の及ばざるものあらん、我に餘りて彼に足らざるものあらん、有無相通じ長短互に補ふによりて始めて文明の利器

|| 鐵道 || も乃ち光輝を發す、而して社會の進運、人生の福祉を助長する所以なり。我郡山不似なりと雖幸に起點の要區に當り、而も現在に將來に實業を以て其立脚地とす、其地位に對する大方の附托に脊かざるべきは余の信じて疑はざる所なり。

大正三年十月

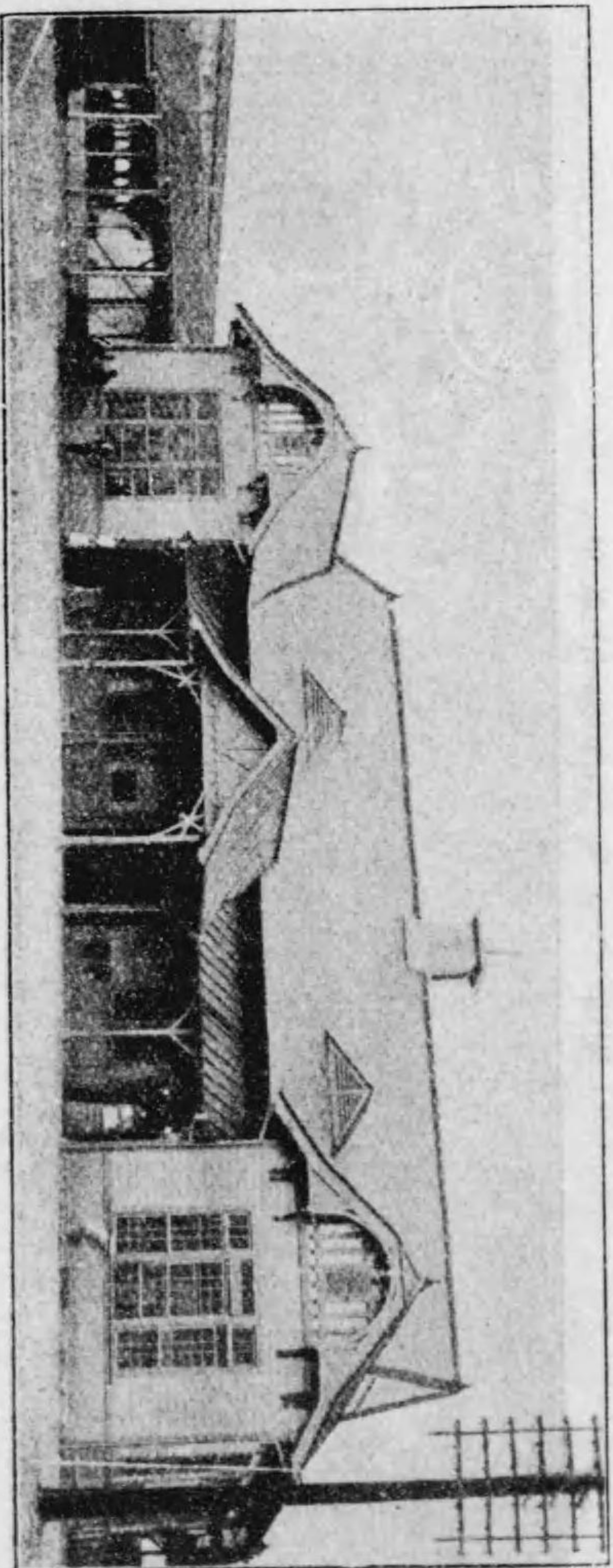
校閱者識す

(3)



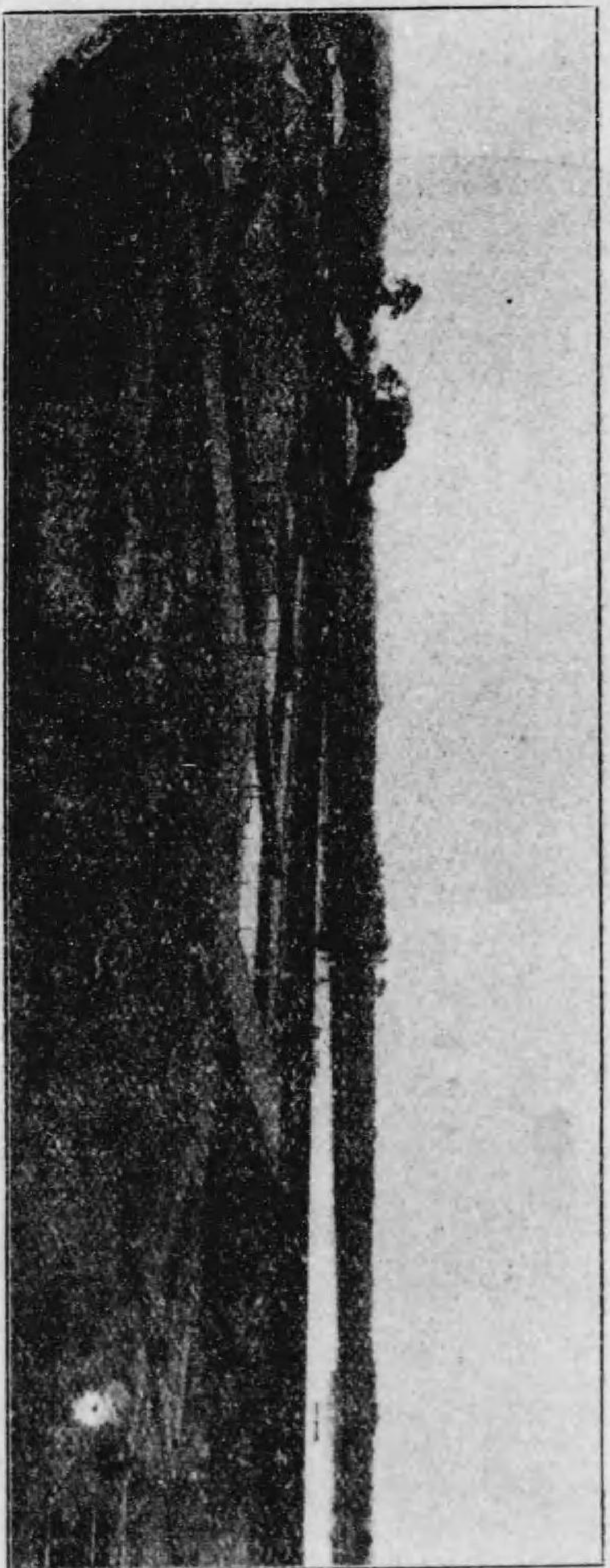
街市山郡るた見りよ方南

(4)



郡山の停車場

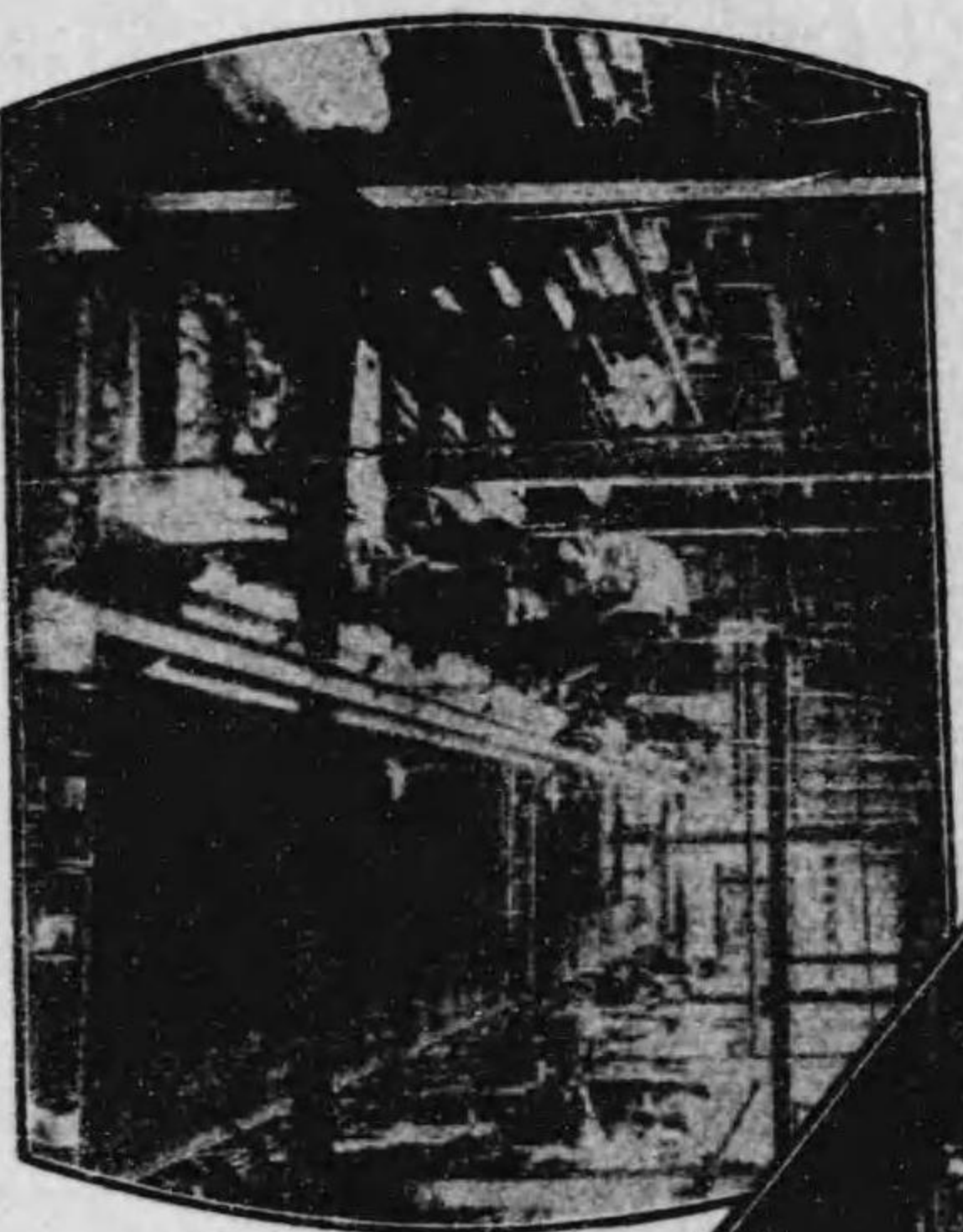
(5)



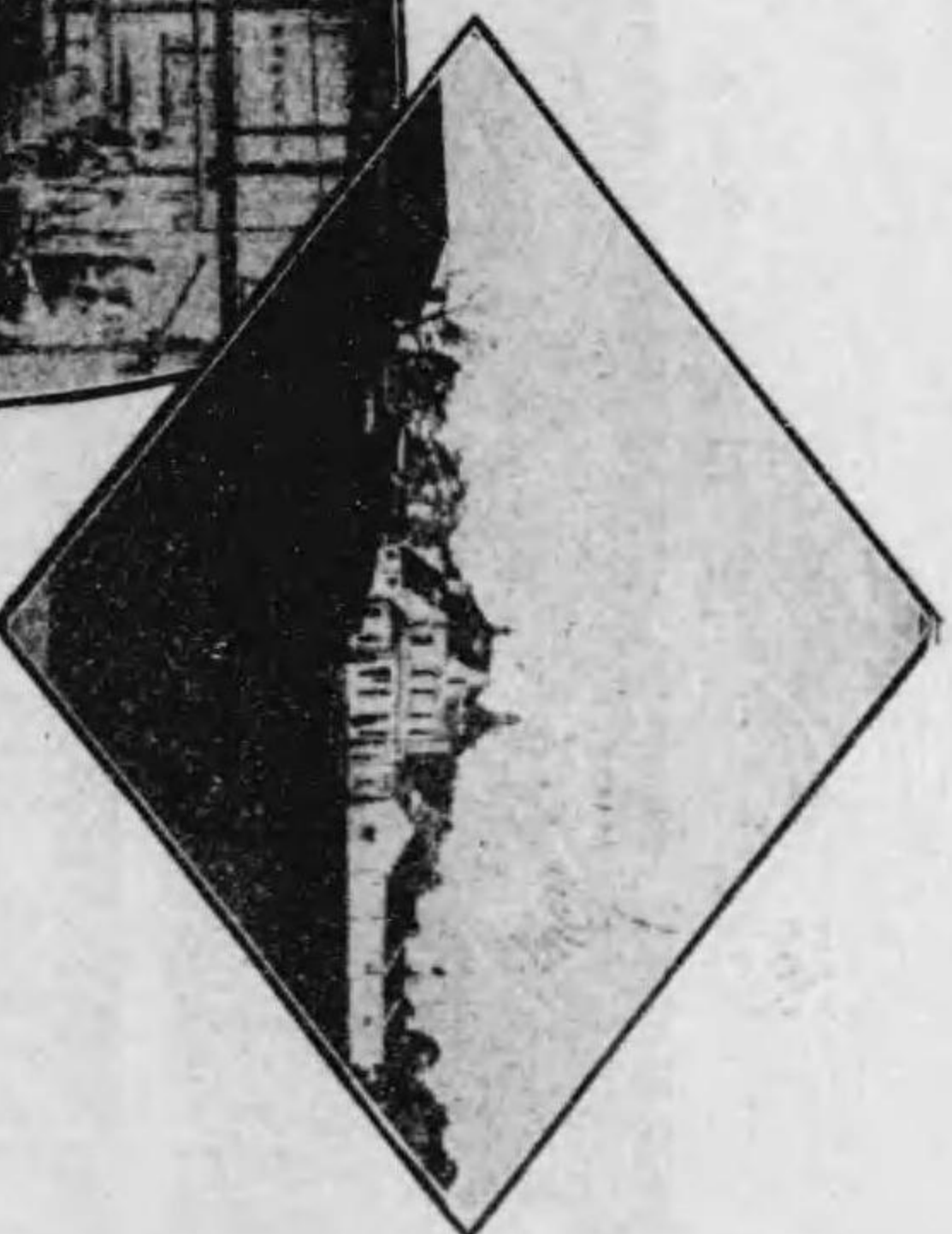
郡山水道浄水場

(6)

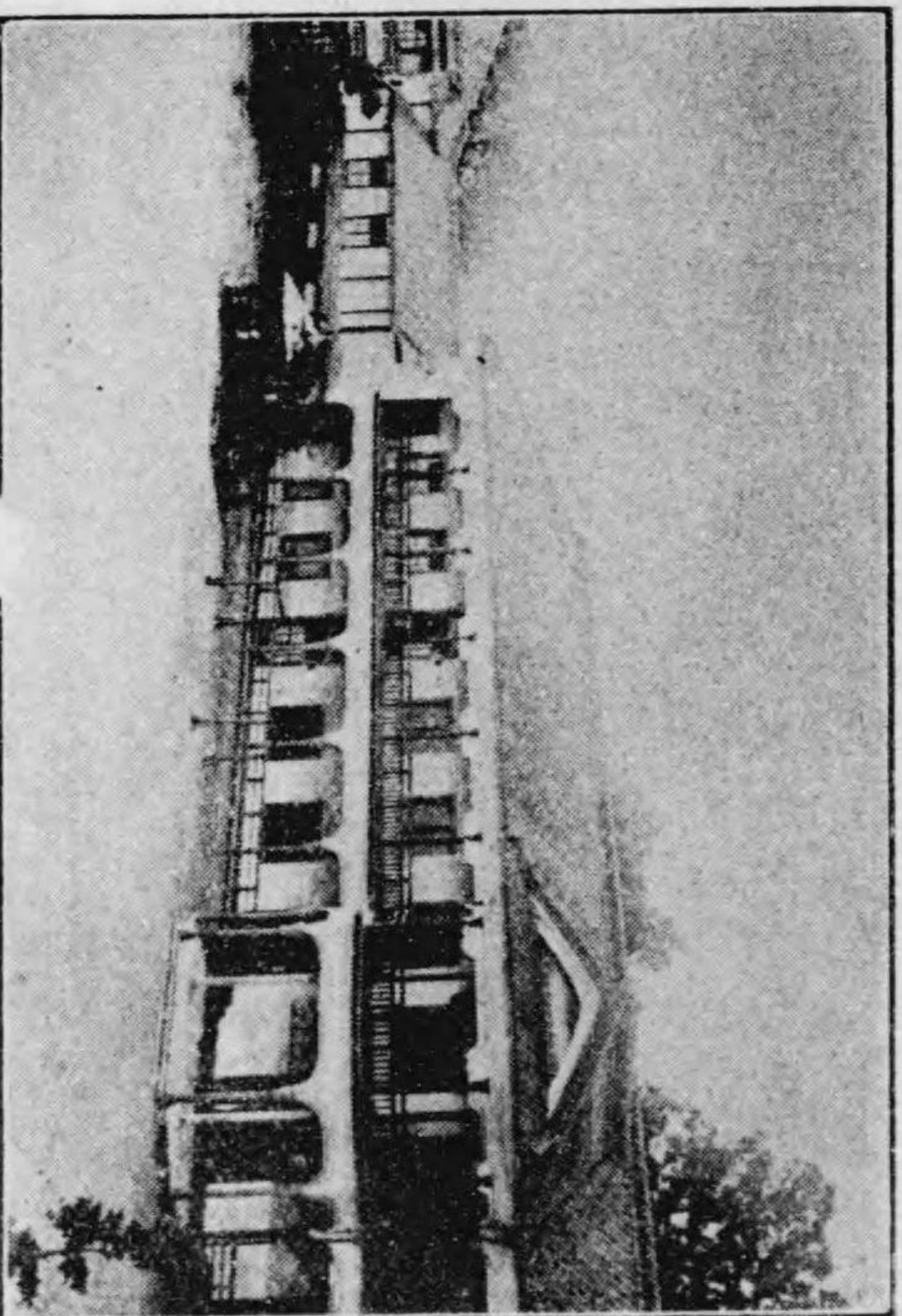
部一の場工社會織紡織絹山郡



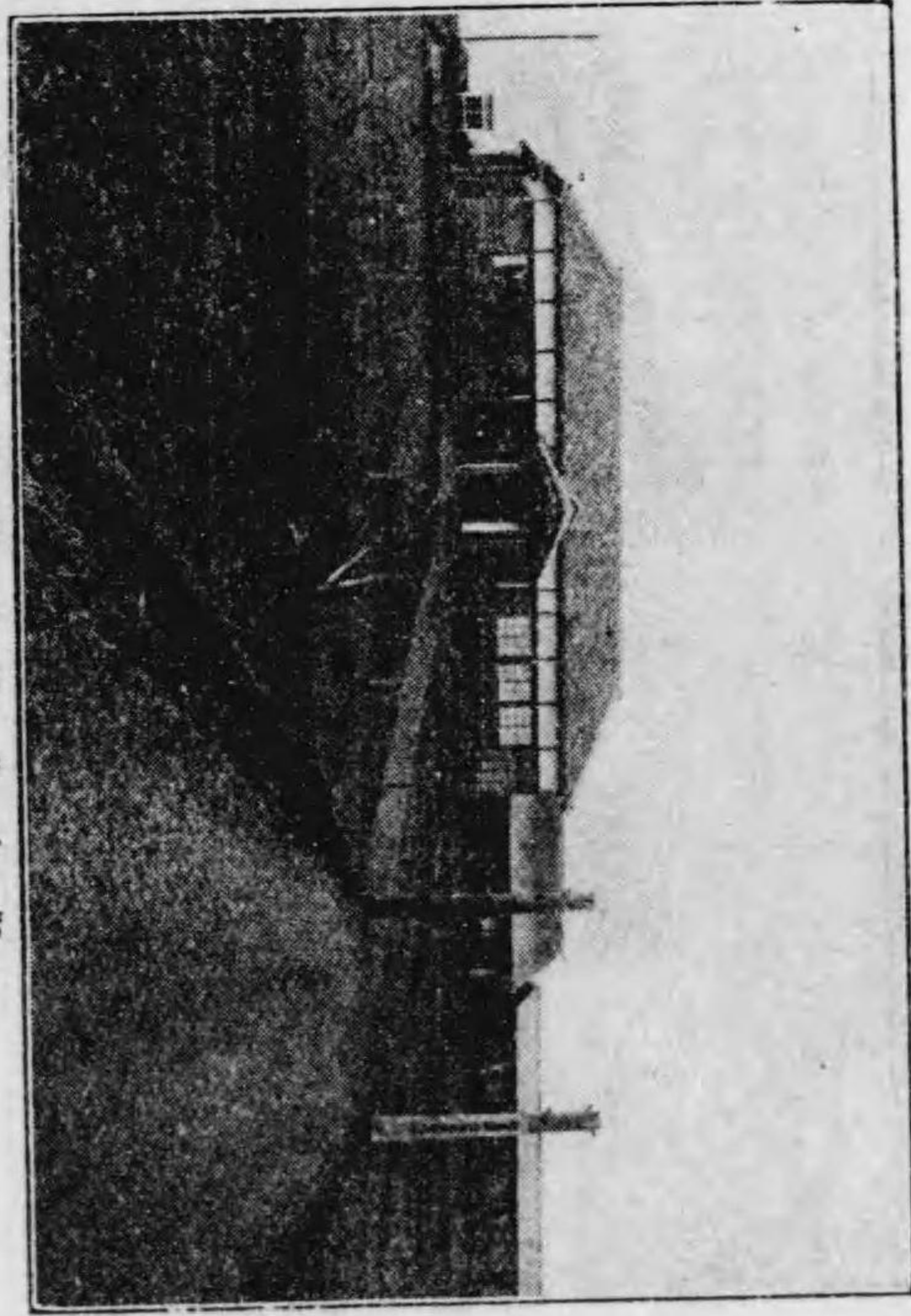
局支賣專山郡



(7)



校學透金山郡



群馬縣立農事試驗場

## 郡山案内

### 總叙

鱗々たる屋瓦一圓に連り、皓々たる白壁四邊に輝き、西に聳えて巍然たるものは是れ安積郡衙にして、南の方遠く萬頃の田園を指し、近く百千の人家を數へ、共樂座の巨棟。專賣支局の構。一眸に入るものは實に金透學校の雄姿をなす。如寶寺の巨刹は翠梢綠枝の間に溢れ、紡績、カーバイドの工場は裁判所と街衢を展開し、麓山の雅趣は秋月に鳴り、共樂園の清景は春花に高く、幾多の工場會社を包容して、宛然盛都の壯觀を擬し、南上北下の車客をして一驚三歎、轉た其繁榮の狀を想見せしむるものは、是れ郡山の現時にあらずや。

### 【位置】

郡山は安積郡の東部、磐城岩代二國の中央を占め、東北本線、岩越線、平郡線等の要



(10)

衝に當る。即ち「南」は白河を経て、東京へ約六時間にして達すべく、「北」は福島より一は米澤、山形及び秋田へ、一は直ちに仙臺を経て青森に至るべし。而して東は三春より平に出で磐城海岸の景勝を探り、西は若松及び喜多方を過ぎ、約七時間にして日本海岸の諸都邑を訪ふべし。郡山發展の困たる斯の天與の好地位を占むる蓋し亦其一たるを失はず。

【地勢】

東經百四十度二十分、北緯三十七度二十一分、海拔七百四十九呎、中央分水山脈遠く西に連り、阿武隈川近く東を流る國道陸羽街道は市街の中央を南北に通じ、縣道安積街道は町の北方より分れて、會津街道に續き、開成山街道は郡山停車場より國道を貫き郡役所前を過ぎて桑野村に至る、郡内に通ずる里道一等線は縦横相開け、鐵道東北本線は町の東を馳せ、岩越線其北より分岐して西方に走る。東太平洋に通ずる平郡鐵道は本年七月を以て三春(七哩)迄開通せり、水利は猪苗代湖第五分水の灌漑を受け

早害なし。氣候温和最高攝氏三十四五度、最低零下四五度の間にある。地貌稍東に低く西に高し、而して社寺及び官衙は其高きに構ひ人家は低きに櫛比して

【町形】

をなす、即ち本町(一丁目より四丁目まで)中町大町(一丁目より四丁目まで)大重町等、南より北に長く國道に沿ひ、阿彌陀町、東町、藏場町、稻荷町、北町、西の内等其東西に參差相通ず。更に近年、堂前、麓山、相生町、燈田、鶴の巢、鳥見臺等の各地に於て戸數激増し自ら町形をなせるもの尠からず今最近に於ける

【戸數】

三千五百人口又二萬二千を以て數ふるに至り兩者共に安積全郡の約三分の一を占め既往約二十年間に於て實に倍數の増加を見る若し夫れ此高速度の發展に徴さば以て將來進連の那邊にあるやを知るべきのみ。郡山總地域

【面積】

(11)

(12)

東西二十六町、南北十七町、即ち〇・三六方里五百卅町歩に比し宅地は約其九分の一に當る、現時の郡山は大要叙上の如し然も

【人情風俗】

は古今素より同じからじと雖も、亦甚だしき變移なかりしが如し。即ち風俗の質素なる、人情の着實なる、殊に俠氣を帯び且つ共同心に富める等共に出色の美性にして郡山

【發展の因】

亦其一を爰に存す。乃ち天與の好地位を占め百事到來の因をなすこと一。共同一致の誠を以て到來の業をなすこと二。而して更に忘るべからざるは、開墾及疏水の大業之れなり。此業成りて荒蕪の開拓を遂げ、次で電力工業の發達を見る。加ふるに明治二十年には東北本線の開通あり次で岩越線近くは平郡線の起點にトせらるゝあり、岩越線は既に全通の域に達し、平郡線も亦一部開通を見たる等郡山は更に樞要の地歩を

占むるに至れり、於是、現時の郡山は獨り縣下商業の中心地たるのみならず、更に東北工業の基地たるべく期しつゝあり

各 説

【安積郡】

は縣の中部に位し岩代國に屬し、一町二十村、面積廿五方里、東は逢隈川を隔て、田村郡に、西は猪苗代湖を隔て、北會津、耶麻、河沼三郡に隣り、南は岩瀬郡に、北は五百川に沿ひて安達郡と犬牙相出入す。地勢概ね高線にして山嶽西方を繞る。三森峠の山脈南北に蟠蜿して、郡の東西を劃し、俚俗東を東安積と云ひ、西を西安積と稱ふ。而して主なる商工業は概ね郡山にあり。

(13)

産物の主なるものは米、生絲、酒、木板、炭化石灰(カーバイド)、紡績細絲、製綿、蠶種、桑苗、鑄鐵物、驪駒、藍、陶器、薪炭木材、煉瓦、蠶綱、眞綿、紡績織物、骨

(14)

粉肥料、蠶蛹肥料、煙草莖肥料、木綿織物、麵類、農蠶具、蔬菜、菓物、菓子類（花  
いかだ、安積豆、花かつみ）等なり。

【安積及郡山の往古】

安積は和名抄に阿佐加と註せり。千年以上の名區にして古は阿尺あさか又淺香とも稱ふ。  
人皇十三代成務天皇の五年比止稱命を遣され阿尺國造に任せらる、其子を日足稱と云  
ひ今の大島の西に住ひぬ、こゝを日足稱内といひ今に其塚あり。子孫世襲今の安藤氏  
に至る凡五十餘世。安積に入郷と云へるあり。尾野、芦屋間流來、五川ごがは、鹽野、入野、  
安積、芳賀、是なり、郡山は古の芳賀の郷にして昔橘爲仲朝臣、陸奥に下りけるとき  
山櫻盛りにして旅の衣を打ちければ

陸奥の芳賀のしば原春くれば

吹く風いこゝかほる山里

と詠まれける、かほる山即ち郡山の稱こゝに起れりとぞ。

公私事業 其一 殖産工業

【開拓事業】

開拓の業は疏水の功と共に大成せり。其起業は桑野明治六年、大藏壇原同十一年、  
廣野、對面の兩原野、同十二年、牛庭原同十四年にあり。而して何れも年と共に其功  
を奏し、年々優に四萬餘石の秋收を得るに至れり、顧ふに其此に至れる所以は長くも  
明治天皇の御施仁を忝ふし當時の相卿諸公に參畫の勞を擔ひ、次て地方當路の指導、  
郡民至誠の勞力、移住有志の精勵相待ち相助けしによる尙各開拓地に於ける移住團體  
を略記すれば

(15)

桑野(郡山開成社)、對面原(棚倉開墾及二本松協力社)、大藏壇原對面原(久留米  
及岡山開墾社)、山田原(高知協力社)、廣谷原(高知及鳥取開墾社)、南原及鹽原  
(若松開墾社)、牛庭原(愛媛開墾社)、四十壇原(東北開墾社米澤藩)

## 【疏水事業】

明治十二年十二月工を起し十五年十月を竣ふ、水路の延長十有五里、灌漑の面積五千餘町、規模の廣大なるは琵琶湖の開墾に伯仲す、拓殖の事茲に振ひ、商工の業茲に起る、政府の模範工事となす決して溢美の言にあらず。彼の共樂園の飛瀑開成山の櫻花、紡績の電力皆惠を疏水に擔はざるはなし、今や維持の法確立し基金己に貳拾餘萬金に達す。明治十四年十月 明治天皇の御代覽として、有栖川宮殿下の親しく工事御覽の事あり、時に御手つから松を猪苗代湖の北岸に値る記念となし給ひぬ、越て三十二年松方侯爵の揮毫を乞ひ一碑を建立せり。

## 【水道敷設】

舊時の水道は明治二十年四月より二十三年二月に涉り有志の醸金一萬餘圓を投じ、郡内多田野村より木管を以て導けるものなるが近年戸口の倍加により水量不足を告げ、従來の水道及疏水を源水とし、淨水場を字麓山に設け給水人口三萬人の計畫によ

り、工費十八萬圓を以て市内縦横に鐵管を布設し清澄なる良水を給するものなり、四十三年起工、四十五年四月より給水を開始せり。

## 【縣立農事試験場】

郡山の西約八丁字長者にあり、面積一萬六千五百坪、四十四年四月規模を擴張し今の地に移りぬ。縣下唯一の大試験場にして鍛鍊なる數多の技師日々研究に従事せり。特殊の設備の下に農商務省囑託試験を行ふは東北唯一なりといふ、昨年其傍に農事講習同窓會事務所一棟を建築せり。

## 【郡山專賣支局】

(17) 明治三十八年四月創設當時は郡山煙草製造所と稱し翌年十一月改正の折紡績會社の元の敷地建物を買上げ、廳舎を新築し及修築して以て現今の大構造となし客歲六月新に支局となり三春、須賀川、若松、石川、小野新町の五出張所及豊成、坂下の二派出所を置き、製造高さつき以下二十萬貫、價格實に百三十萬圓の巨額に達し、鹽の取扱

(18) 高七十六萬四千圓青木支局長を始め職員八十人男工二百六十人女工三百六十人秩序整頓し、補習教育、貯蓄、救済等のことに至るまで遺憾なく設備せられ日々勉勵しつゝありといふ。

【郡山絹紡績株式會社】

共樂園の北、細沼池畔にあり、沼上發電所へ十四哩餘、疏水を利用して電力を起し社名の事業を營み、傍ら諸般の工業に電力を供給せる地方有數の大會社にして市中及び近郷に點せる電燈は其一部事業なり、二年臨時總會に於て二十萬圓を増資し五十萬圓となり發電力一千三百馬力を増加して二千七百馬力を有するに至れり。

【郡山カーバイド株式會社】

紡績會社の東隣にあり、三十五年横濱田中某氏の創始經營に係り、本邦カーバイド事業の嚆矢なり。四十年中當町橋本、根本の兩氏之を買收し株式會社となす。産額の多き品質の優良なる全國第一位を占む。

【合名會社正製組】

十三年創立。當町に於ける座繰製糸の祖にして、支店を小泉に出張所を小濱に有し、又四十四年新たに字麓山淨水所東隣に器械製糸所を設置せり、釜數三百三十を算す。

【眞製合資會社】

十四年創立。依托繭製絲並合同販賣及倉庫業を營む、字清水臺上宏壯城の如きもの即ちこれなり。又四十三年卒先して器械製糸を開始せり。

【橋本合名會社】

呉服店、不動産部、貸金部、質部の四部に分ち最近改築に係る店舗及び家屋は規模の宏壯輪奐の美縣下大一と稱せらる。

【岩代製絲所】

(19) 町の南方字原田にある大工場にして信州片倉氏地を相し四十五年三月創設す釜數五百五十釜にして尙將來擴張の見込なりといふ。

(20)

【二本松銀行郡山支店】

字中町、本店は二本松に在り有力なる同行の支店にして四十五年中開業せり。

【郡山瓦斯營業所】

字大重町、株式會社にして本社は福島に在り大正二年四月創設す。

【郡山信託株式會社】

字燧田、資本金を拾五萬圓とし大正二年五月創設す。

【郡山商品委託倉庫株式會社】

字燧田、資本金拾萬圓とし大正二年五月創設す。

【小作人信用購買組合】

橋本合名會社が其小作人保護の爲に昨春設立したるものにして同會社より一萬圓の出資を爲し地方稀なる組合なり。

【橋本合名會社製綿工場】

紡績會社の北隣にあり、電力を應用し英國製最新式の機械を以て巨額の製品を産出し品質の優良なるを以て高評あり、主なる販路を京濱地方及び青森縣、北海道等とす。

【良製社】

二十三年創立。停車場南通り字燧田、合名會社正製組、眞製合資會社等の共同荷造所なり、品質優良を以て聞ゆ。

【種苗圃】

其縣立は丸守村高玉温泉の傍、郡農會立は郡山の西一本松の傍等にあり、農事試験場に於ても良種を配布せり。

【正製銀行】

字中町、正製組社員の組織に係る合資會社にして二十八年創立、實業に其他に多大の便益を與へ居れり。

【安田銀行郡山支店】

(21)

(22)

字中町、去る四十年中、堅牢宏壯なる店舗を建築し、市街に美觀を添ふると共に業務益隆盛なり。

【第百七銀行郡山支店】

福島に本店あり縣下に有勢なる同行の支店にして、字中町に四十四年中開業せり。

【産馬組合】

二十七年設立、全部を一組合とし専ら産馬の蓄殖馬格の改良に勉む、毎年九月、東部桑野、西部福良又は三代に糶場を開設す。又春秋二期、福島縣産馬聯合會主催のもとに開成山、上ノ池競馬場に於て競馬大會あり、逐年益々駿良を産す。

【橋本農園】

當町富豪橋本萬右衛門氏の經營に係る、市街の西荒池々畔にあり、池の南方一帯の丘地を開き、果樹蔬菜を栽培す、規模の大眺望の佳、地方の模範農園なり。

【今泉農園】

農事試験場の西北字桃見臺にあり、今泉顯治氏の經營に係り果樹蔬菜及牧畜の業を營む。

【郡農會】

郡の補助を得て大に農事の改良を圖り、毎冬期各町村に講習會を開きて利害を攻究しつゝあり。

【郡農事講習生購買販賣組合】

本郡農事講習生を以て組織せる名の如き社團法人にして字藏場町にあり。

【製板所】

數ヶ所あり近年の創始に係ると雖も急劇の進歩をなせり、重なるを字細沼、増子製板所とす何れも電力を應用し産額多し。

【鐵工所】

重なるを岡田(細沼)増子(堂前)吉田(東町)齋藤(柳内)郡山(燧田)鐵工所とす何れも

(23)

(24)

主として諸器械を製作す。日和田鐵工所は山野井村日和田にあり本郡の一特産物なる日和田の鑄造業者一團となり、大小鑄造界に飛躍せんとして起りしものなり。

【紐育スタンダード會社油槽所】

宇東宿、當町豪商根本祐太郎氏の經營に屬す、世界石油中品位最優良なる、米國石油を貯藏し弘く各地に販賣す、比年販賣額増加を示せり。

【英國ライジングサン石油會社油槽所】

スタンダード油槽所の南隣にあり、當町棒木佐藤商店の經營に屬す。

【肥料製造】

字幕の内に骨粉肥料。屋敷跡に蠶蛹肥料製造所あり、煙草莖肥料は郡農會にて扱ふ。

【陶器製造所】

本郡福良村にあり文政年間の創始にして、新製焼と稱する諸陶器を産す、就中土瓶は強烈なる火力に耐ふるを以て賞せらる。山野井村牛ヶ池は主として甕類を産す。

【植 林】

郡事業のもの、中野村、穂積村、疏水組合に屬するものは、安達郡、熱海及行啓記念學校聯合造林等を主とし他に數ヶ所あり。

其他の重なるものは、安積郡地主會、郡山耕地整理事務所、郡山納稅組合、郡山信用組合、安積疏水普通水利組合、郡山町農會等なり。

公私事業 (其二) 教育及風俗

【金透巖】

字堂前にある第一尋常高等小學校なり、明治九年の建築にして長くも 明治天皇與羽御巡幸の際 龍駕此に躍りたまふ、供奉木戸孝允公筆を揮つて、金透巖と命名す、正面揚ぐる所の額これなり、校歌あり

たてしこゝろしかはらすは、

石に立つ矢もありといふ、

(25)



(26)

つとめはげみて大御代の、

名におふ民とうたはれん

【第二尋常高等小學校】

町の西字鐘堂にあり、三十三年地久節の日開校す、土地高燥、西方遠く額取の連山を望むべし。

【郡山幼稚園】

私立にして字燧田にあり、明治四十一年創立す。

【郡山訓盲學校】

私立にして校舎を字燧田に置く、明治四十一年開校。

【子守學校】

町立にして字燧田にあり三十四年創立、可憐の幼児を負ひつゝ、日々出席生百數十名。

【郡山裁縫專修學校】

私立にして字本町にあり創立日淺きも生徒の成績甚だ良好なり。

【郡立實科高等女學校】

字長者、明治四十五年開校にかゝり、入學志願多しといふ。

【郡立蠶業講習所】

第二學校の西隣にあり郡蠶種同業組合立なりしが近者郡立となれり。

【縣立安積中學校】

郡山の西二十五丁餘、桑野にあり、土地高燥、氣候清麗、日々出席生無慮六百本校出身有爲の士多し。明治十七年設立。

【安積教育會】

去る二十九年中規模を擴張す、毎年教員講習會及講演會を開き斯道に益を與ふる少からず、會員千餘名。

【金透圖書館】

私立。金透蠶内にあり二十八年紀元節創立、内外數千の書を藏し青年以下の閱覽最

(27)

も多しとす。

(28)

【郡山金透同窓會】

金透賢出身者以て組織し會員凡千數百名、圖書館の經營、其他教育上の施設少なからず。

【郡山修養會】

専ら精神修養を目的とす、會員百餘名、年數回名士を聘して講演を請ひ、公開して弘く聴聞に任せり。

【教育及講義所】

日本聖公會、日本基督教會、福音教會、天主教教會、神道精義教會、日蓮宗中山教會、神道天理教會布教所等。

【各種の會】

郡人婦人會、愛國婦人會、篤志看護婦會、母の會、第二校同窓會、青年實行會、學

而會、在郷軍人會、郡山分會、郡山參禪會及修養團支部等。

公私事業 (其三) 衛生

【衛生一般】

郡内に地方病を見ず。醫師の優良なるに富むは地方稀に見る所病院の主なるものは郡山に、壽泉堂病院、太田病院、郡山病院等にして遠近の信賴多しとす。

【壽泉堂病院】

停車場南通字燧田。院長湯淺爲之進氏。

【太田病院】

郡役所前通字中町。院長太田三郎氏。

【郡山病院】

字清水臺。院長醫學士佐藤春三郎氏。

(29)

【町立鶴の巢病院】  
傳染病患者を收容する所にて、室の區劃、消毒の設備等完備せり。

【郡衛生會】

大日本私立衛生會の支會にして元郡山衛生會と稱せしを四十年八月擴張變更せり。

【衛生組合】

各町村に設置し平素衛生上に法意し、郡山には專任巡視を置き人夫を督勵し清潔の保持を計る。



汽車鐵道荷物發着數

大正元年度

郡山驛

鐵道に於ける荷物の發着數は經濟の一般を見るに便あるを以て左に之を掲ぐ。

品名	發	著	品名	發	著
米	四、三七九	二、五四二	鐵	一六九	二、一四二
雜穀	三五三	二、〇二三	陶磁	三九	一四九
食鹽	一五、九〇八	一七、一二八	綿	一〇	三八
肥料	六八九	三、三七三	絲	五六	一七六
木材	二、六二七	二、二八九	紙	九	一四四
石炭	八八	一、八五五	洋	一、三二九	一七七
薪炭	一八	八、六六九	煙草	一、二四七	三〇八
砂糖	二、九四七	三、二八	油	一、二四七	一七九
甘藷	四三	七〇九	石灰	三三九	六七
茶	一九七	一、四〇〇	石	三三九	九八一
和糖	四六	一、〇五三	瓦	二八	一〇一
醬油	二七一	一、〇四二	煉瓦	三三	一八四
魚干	一八	一、〇四二	木	二八	一七〇
鹽	四七四	一、二七八	鮮魚	一五	二七〇
			介皮	二四	七三〇

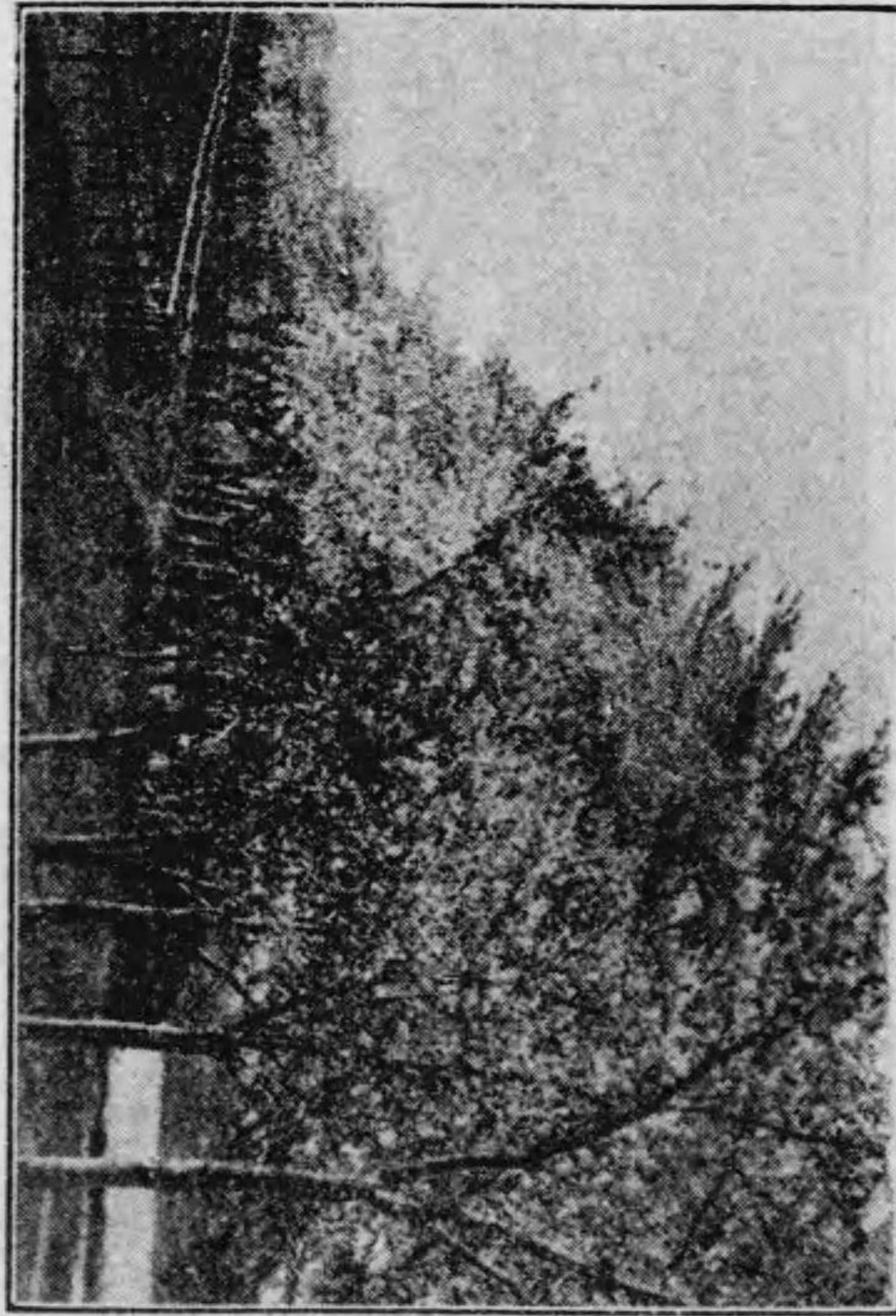
絹織布	三二	一三	四三	三七六
生絲	八一	三三二	六一	一二八
生絲交	一七三	六	一	六、二〇一
繭絲	四四	一〇六	四五	一、三九九
漆器	七六	三七八	八	一七八
漆物	七七	一六二	六、六七五	一九、六五一

同上旅客、貨物

同上

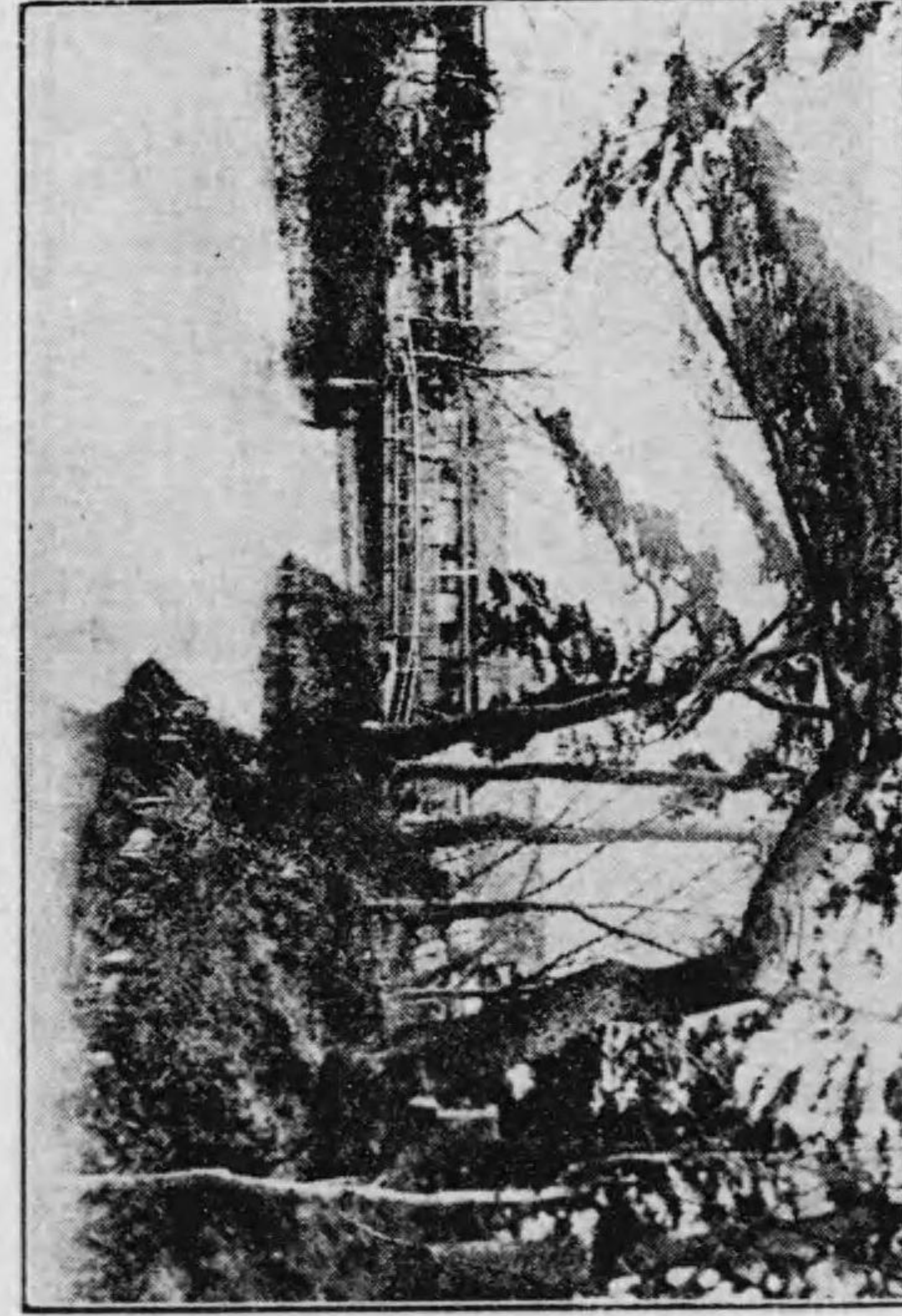
大正元年度	一八〇、七八八	一八三、五六二	一九四、一三五	二四五、三〇二	七四、六六九	一〇〇、〇三六
明治四十四年度	一五五、九〇九	一五八、六八〇	一三九、九七八	?	三九、一八七	四二、八八二
同四十三年度	一四五、二〇一	一四四、〇二一	?	?	二七、二二四	三〇、九六九

郡山の發達が如何に急速力なるかは本表によりて其一斑を知るに足るべし。



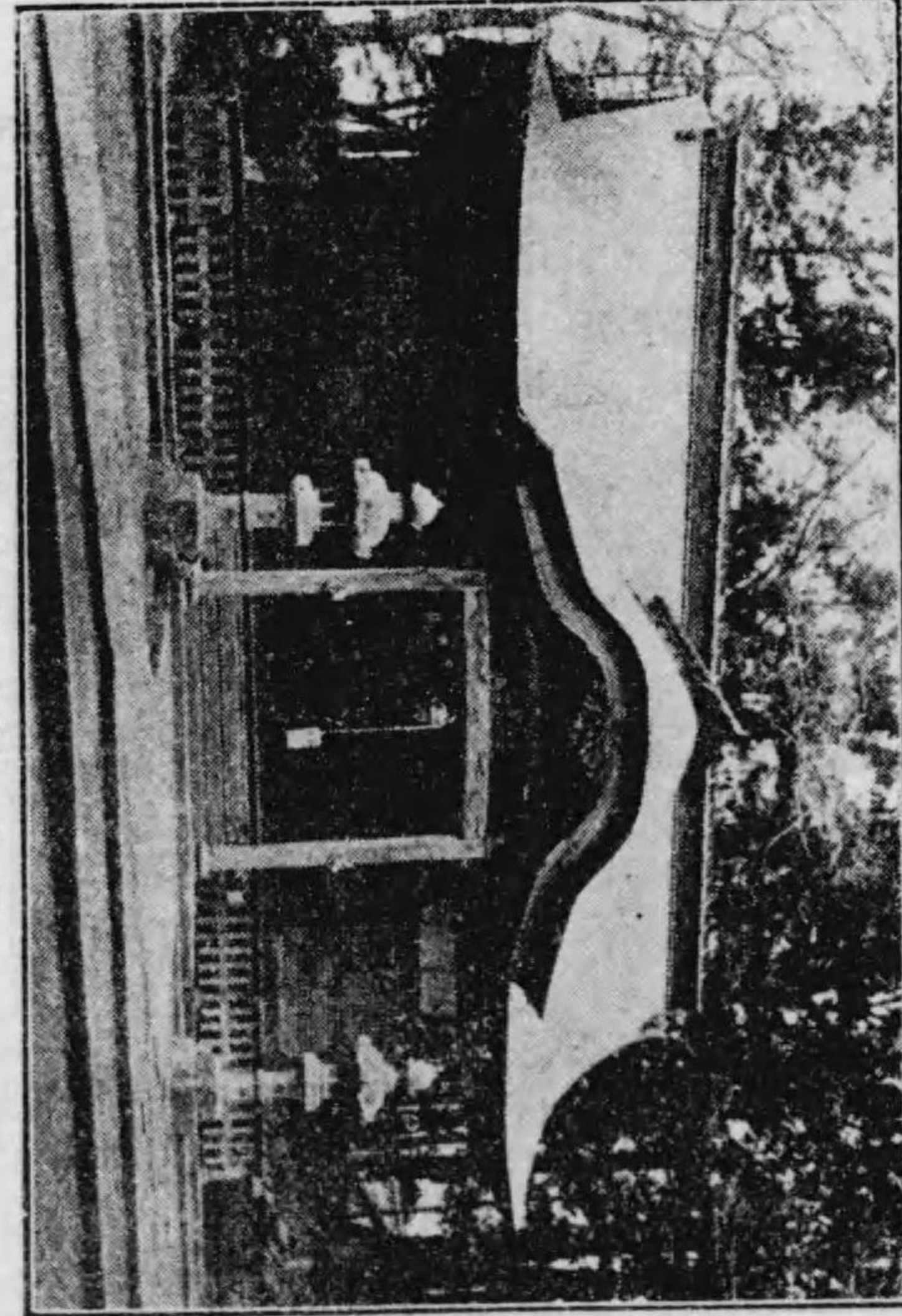
開成山公園圖

(34)



共 樂 園

(35)



縣 社 安 積 國 造 神 社

松 士 淨

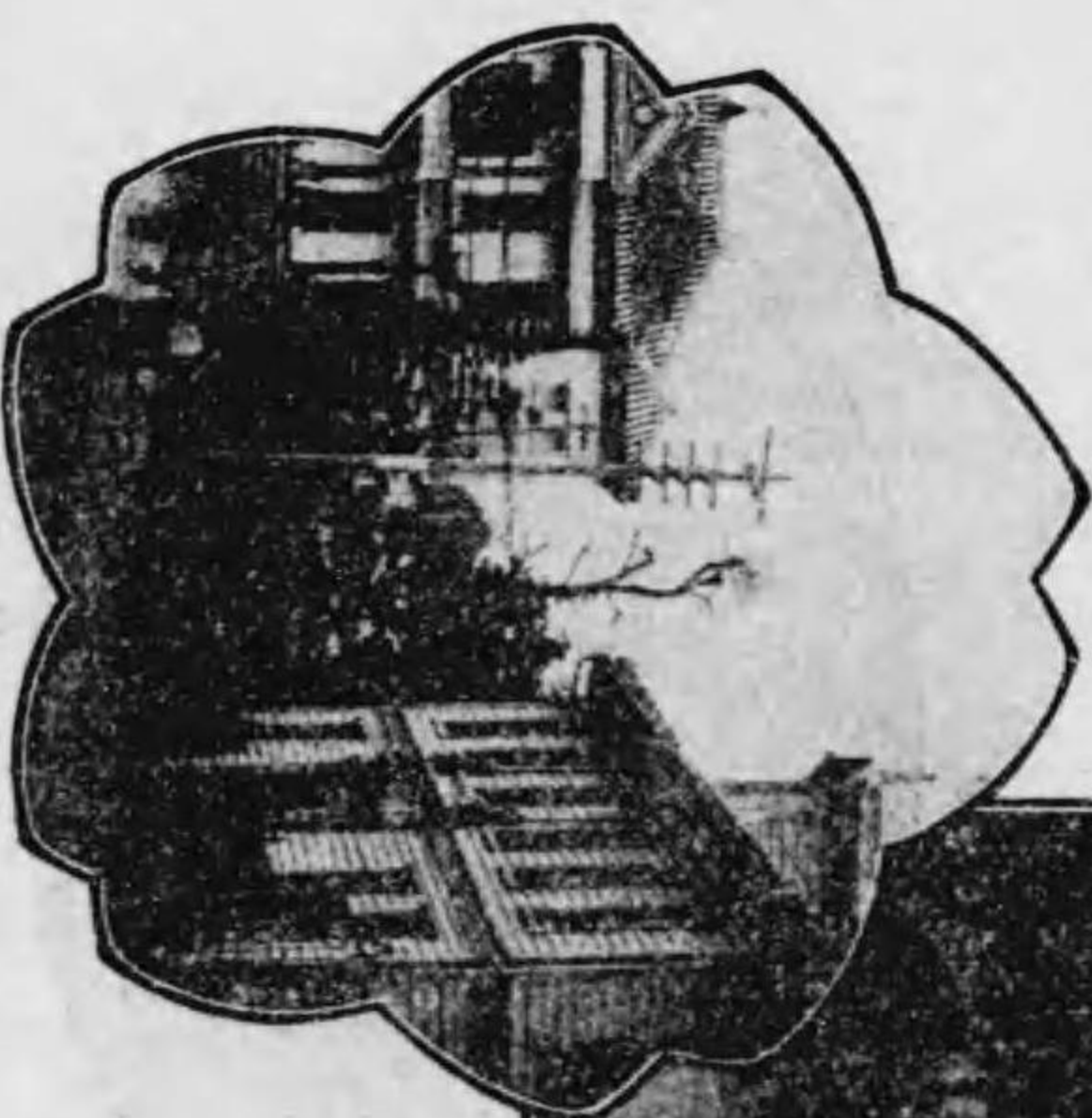


校學小二第之寺寶如

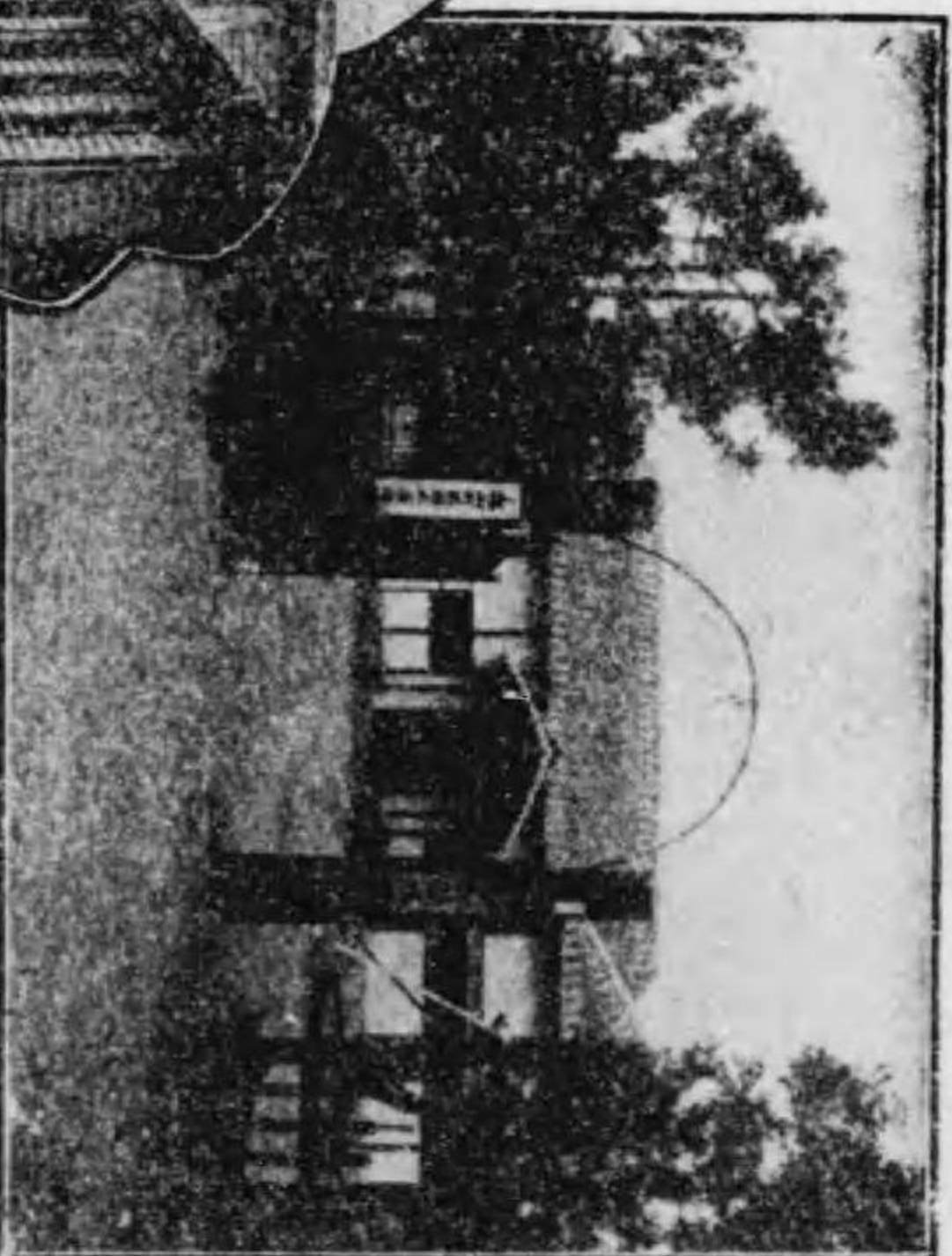


小 和 瀧

所役郡左之局便郵右

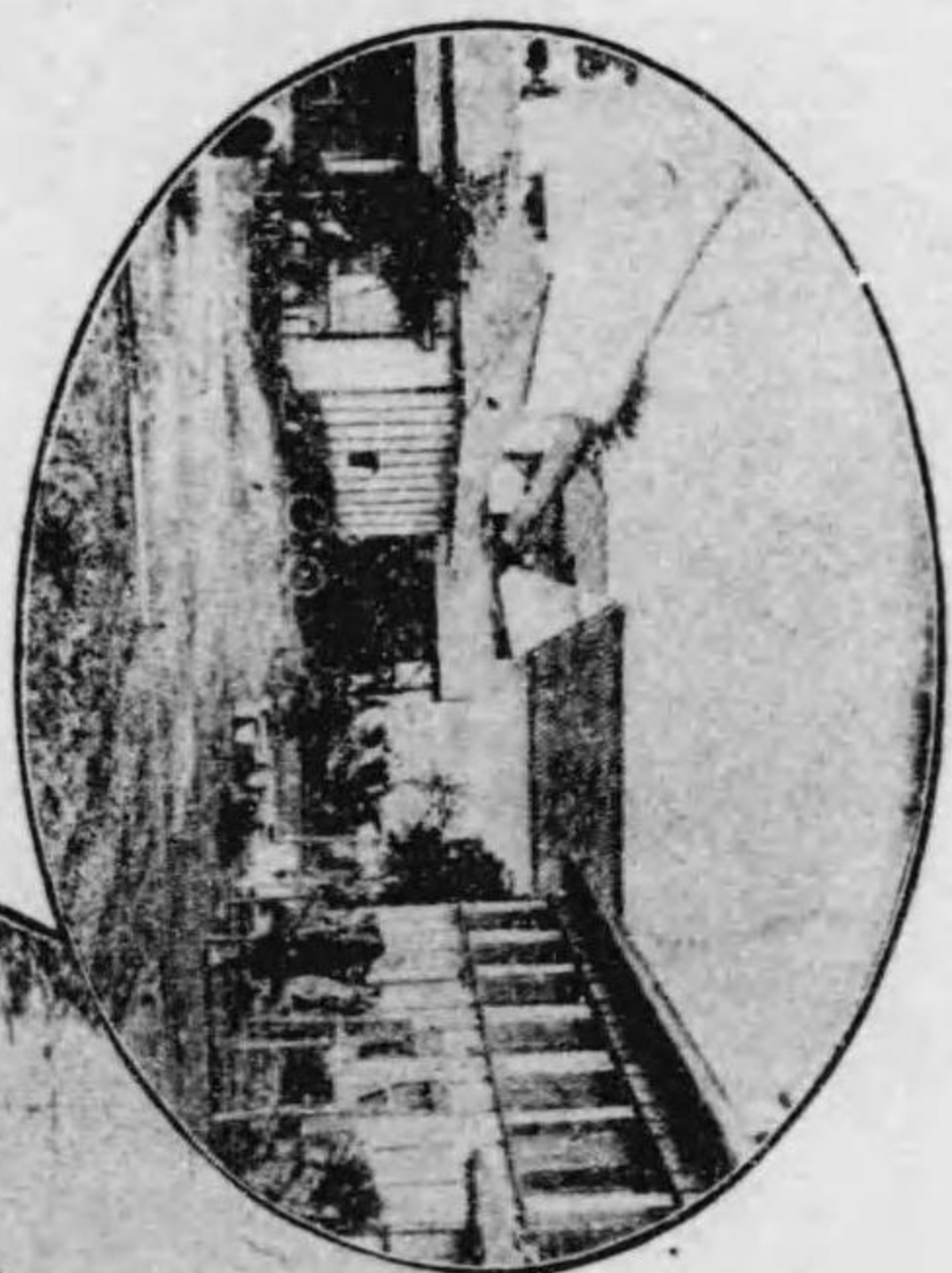


場 役 町

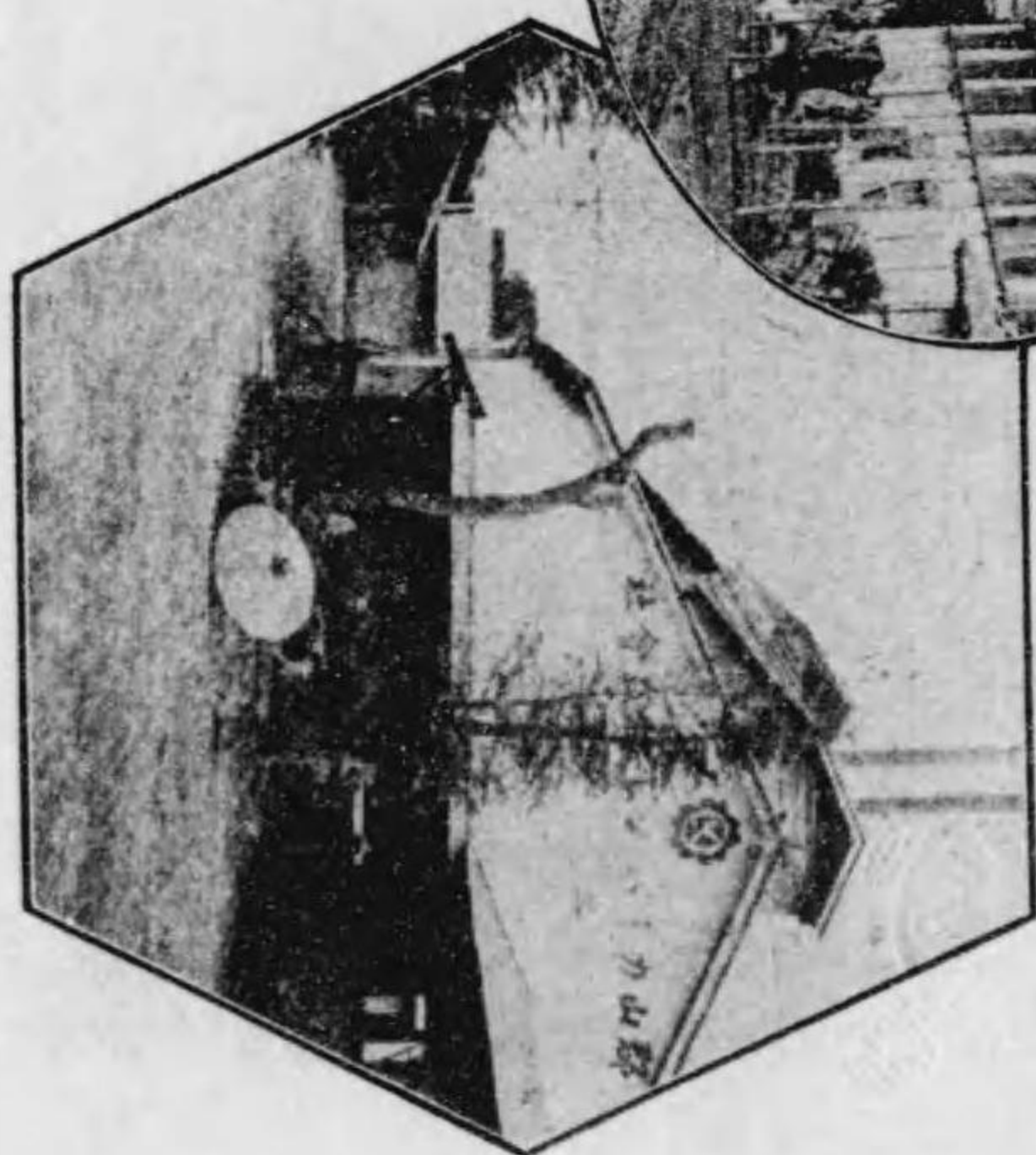


(38)

社會實合製菓

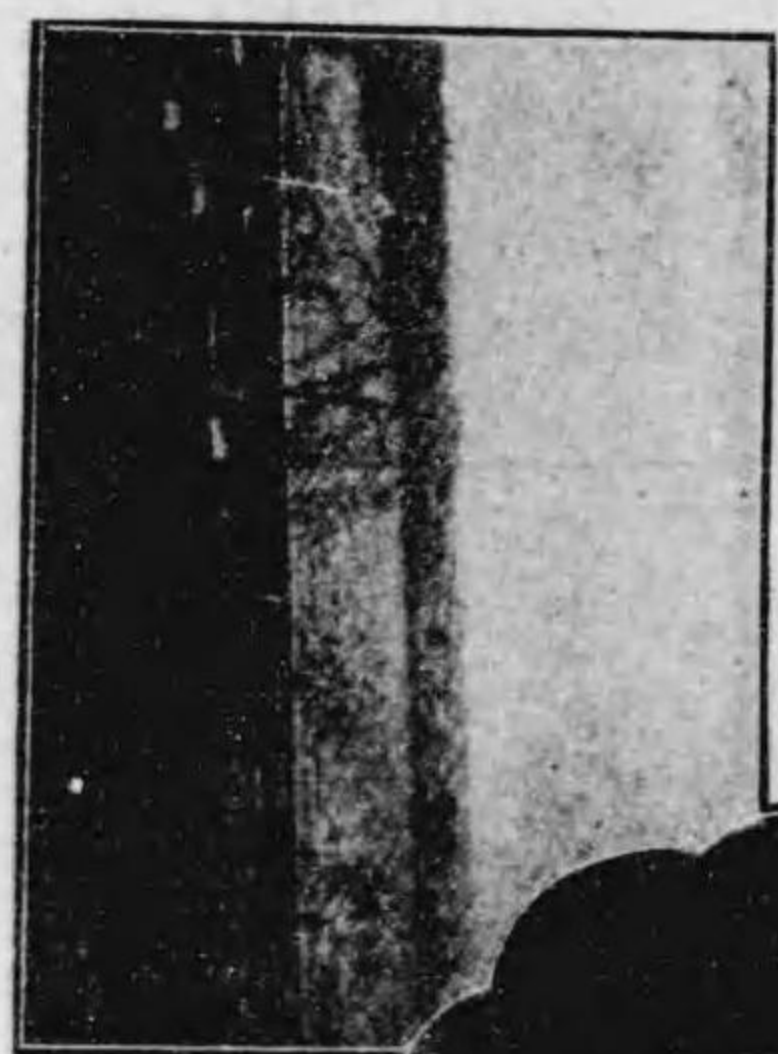


社會トイパーカ山郡

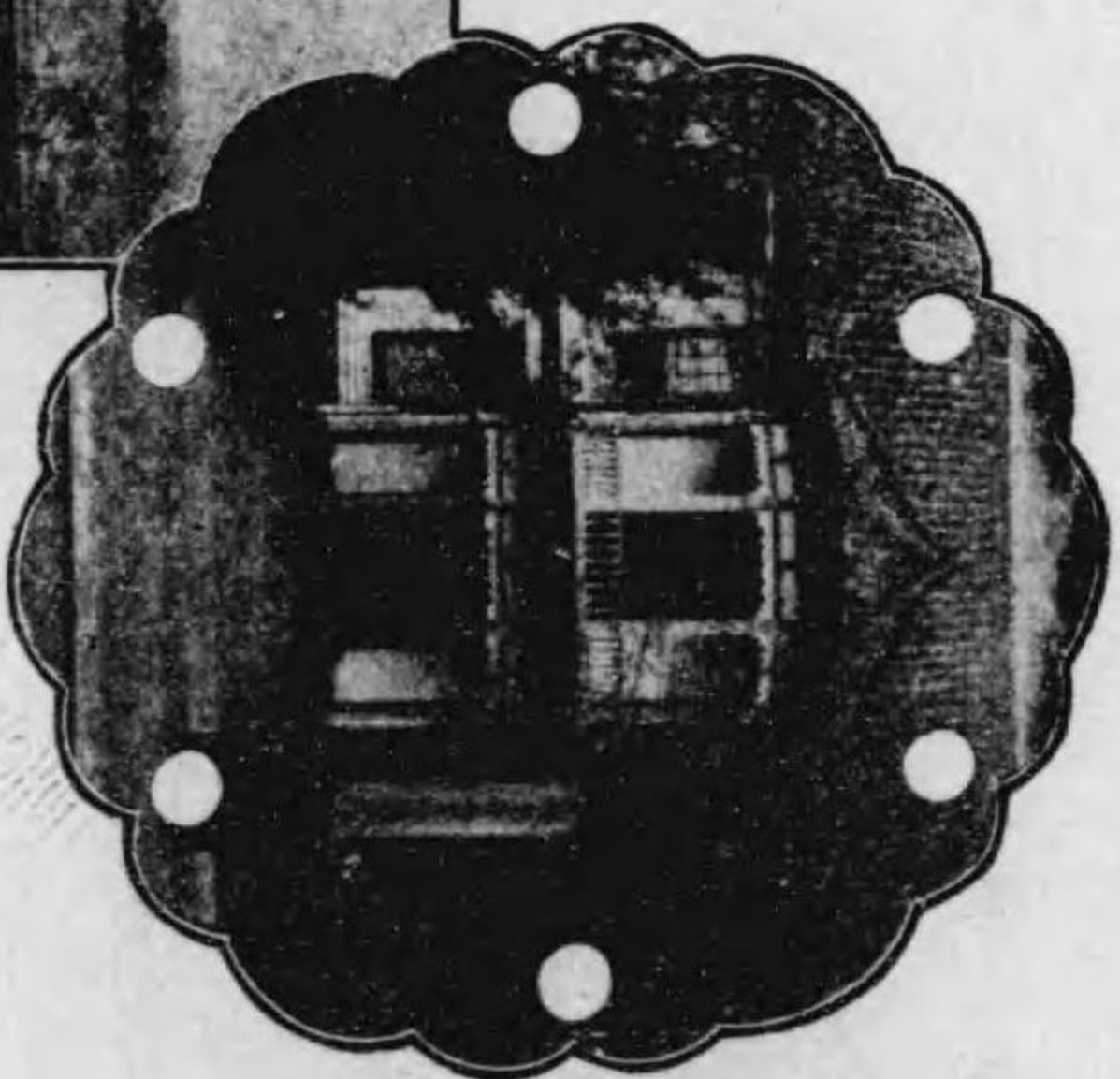


(39)

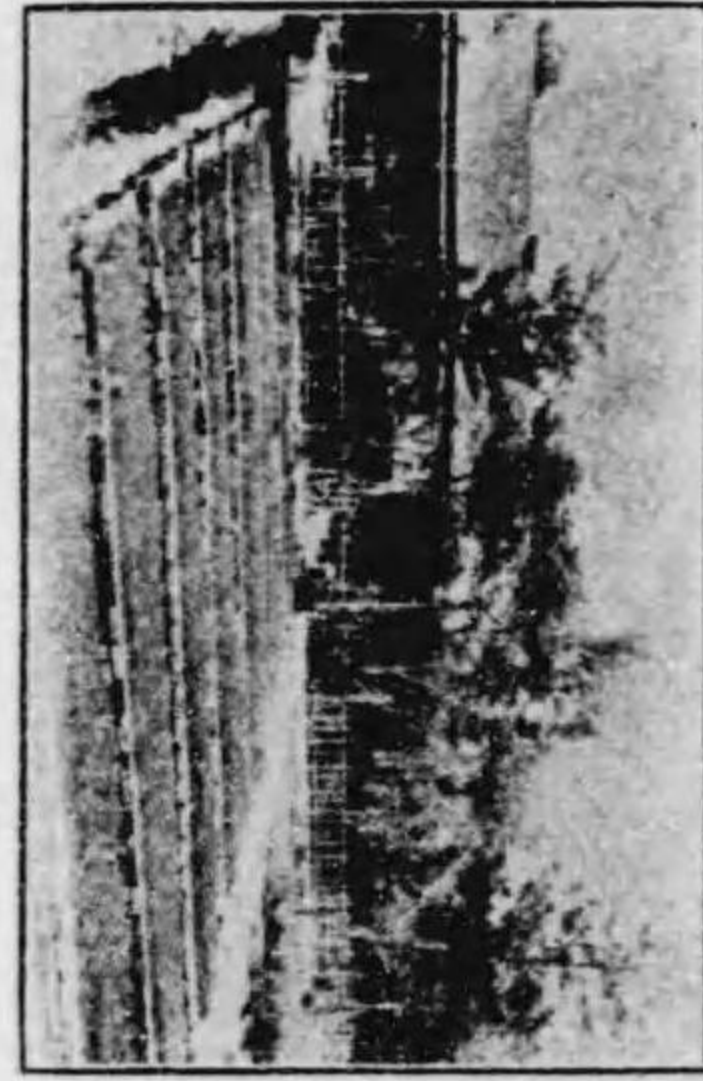
沼成開



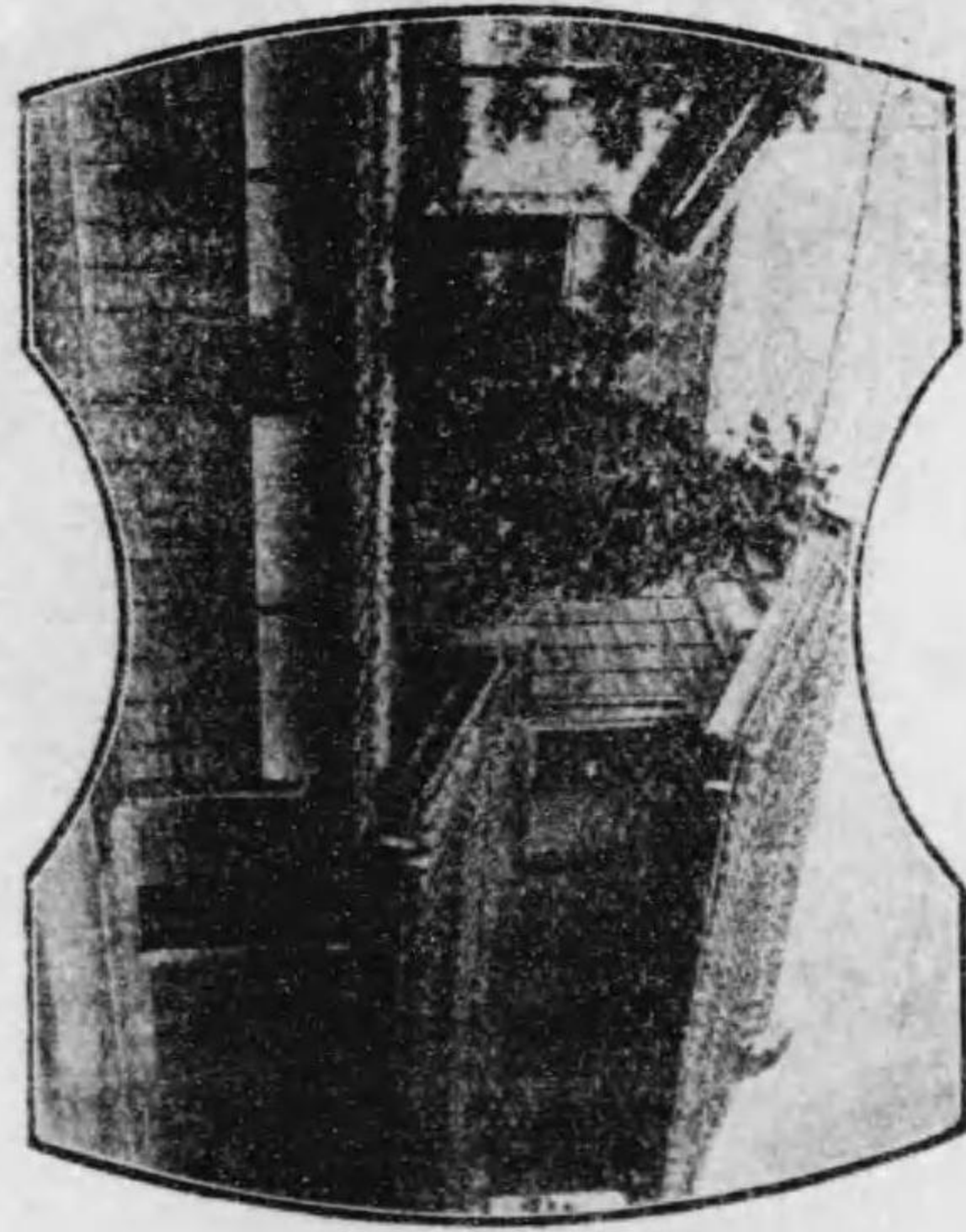
縣立安積中學校



(40)

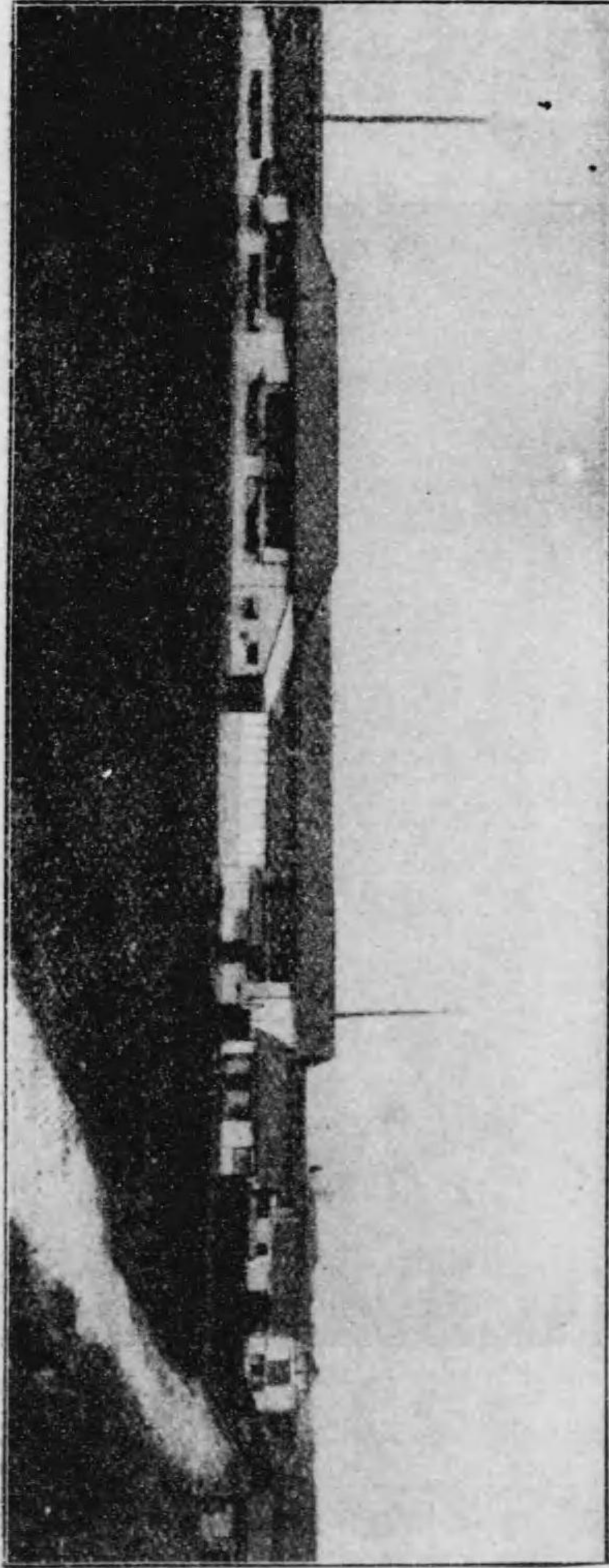


橋本農園



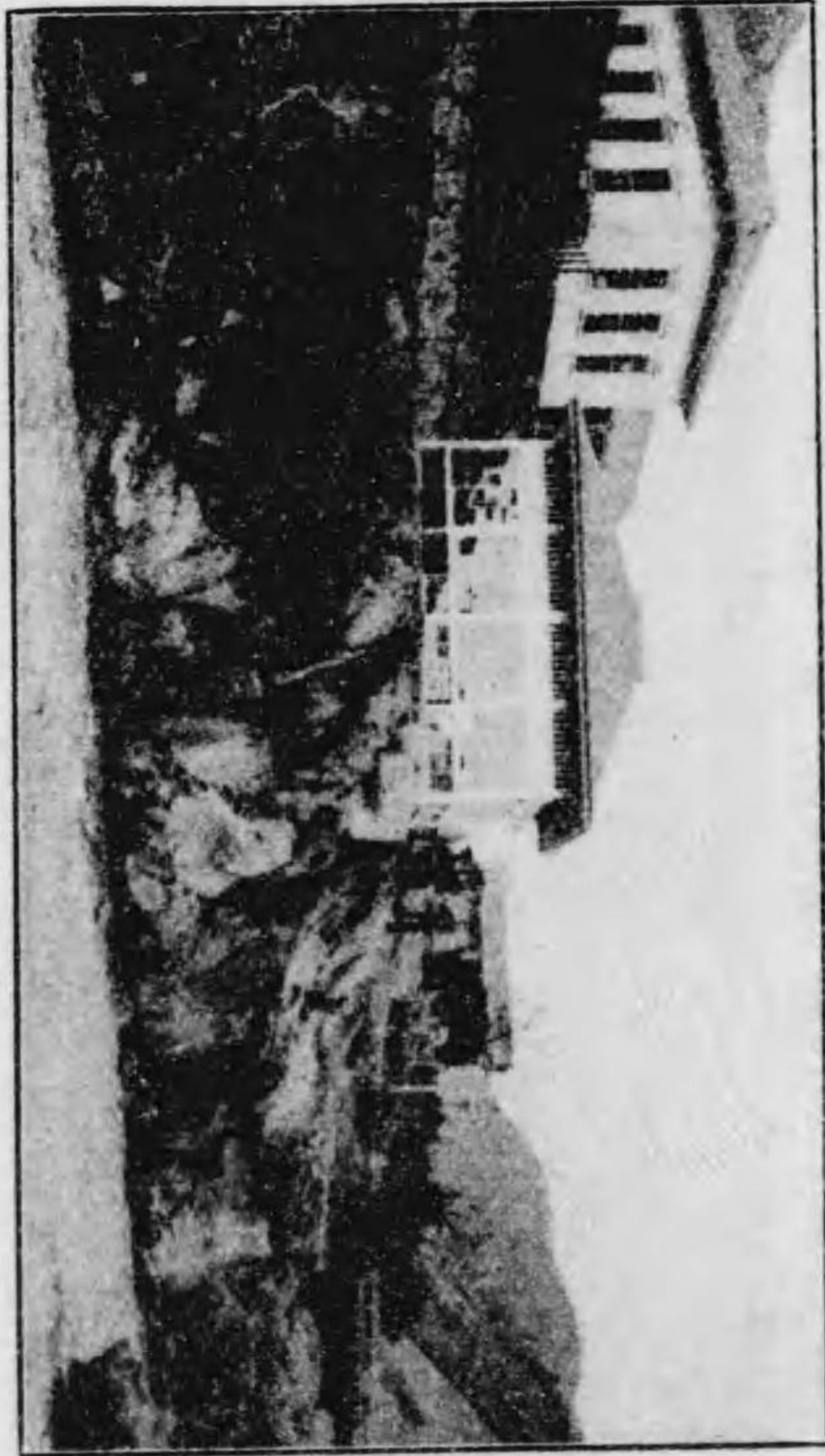
正製銀行

(41)



正製組糸糸場





高玉温泉浴室と宮山

### 名勝舊跡

【共樂園】（一名麓山公園）町の西開成山通りの南、麓山の邊にあり。昔は辨天と稱し二本松藩主唯一の遊覽地なり、翁鬱たる古松池を廻りて幽邃愛すべし

【麓山瀑】 同園内にあり、一道の飛泉松籟颯々の間懸り雅客の吟杖四時絶へず、丘上麓山神社あり、毎秋の例祭近郷の壯丁集まりて角紙の興あり

松濤吹罷瀑聲多。日夕遊人載酒過。此水飽資田萬頃。粧成奇勝是餘波。大須賀筠軒

【開成山公園】 郡山の西二十五丁許、櫻花を以て其名遠近に高し。明治九年勅許を蒙り伊勢大廟の御分靈を奉祀す、境内翁鬱として神威殊に嚴なり、西北には安達太郎、磐梯の遠巒東南一望、移、大瀧根、蓬田、等の諸峯を數ふべし。碧塘の邊春曉紅雪を飛ばし、鏡池の畔、秋夕白蛇を躍らす、螢火は以て涼を導くべく、雪花は以て冬を忍ばしむ。又郡山膨脹の因たる諸般の事業は實に此山頭に於て畫せられたるものなり、殊

に再度 御蹕輦の榮を辱ふし、雷に風光に於て將た事業に於て誇り得るのみならず又  
明治聖代の萬歳を頌ふべきなり。

蝦海風光連夜夢。岩山煙雨積年情。丹心誓欲開東北。爲拜神祠捧至誠。

ふるさをはなれの森に來て見れば  
旅もうれしき花盛哉

神垣や薰風襟を正しふす

中條磬山  
海上胤平  
破 笛

【菜根屋敷】 桑野村にあり、明治九年御東巡の際畏くも 明治天皇には御馬に召させ  
られ親しく開拓の狀を天覽あらせらる、時に農民孫助なるもの自作の大根を奉獻せし  
に御威斜ならず内膳に命じて寶膳に上せしめ給ひしやに承はる、菜根屋敷の名こゝに  
起れり

【池の臺】 麓山より之れを瞰る海とも見ゆべし荒池といふ、此地南北一帯の高地は即  
ち池の臺なり、阿武隈山系の諸峰遠く東に連り、一望田圃開け鐵路一條南より來る、

池の南方に橋本農園ありて相對す。  
渡り鳥安積風にしばくす

名鐘の聲や隴の郡山

碧 梧 桐  
鳴 雪

【如寶寺】 眞言宗の寺院にして巨棟高く聳え郡山唯一の眺望地とす、鐘樓に有名なる  
疣無の古鐘あり、先住故鈴木信教師は頗る慈善の志厚く自ら衣食を節して貧家の子弟  
を養ふ實に二百餘人境内岡鹿門翁撰文の碑あり。

【馬頭觀音】 如寶寺境内にあり、虎丸長者の守本尊にして靈顯高く參詣人多し、不動  
堂は其西側にあり。

【釜堂碑】 如寶寺境内に三基あり。一は承久二年八月十一日幸慶建之とあり蓮華上に  
物體を刻す。一は建保七年己卯春二月日とあり七體の物像を刻す一は年代不明にして  
古色何れも愛すべし。

【善導寺】 中町の西隅にあり、天正七年良吸上人開山の淨土宗寺院にして壯麗なる建

物なりしが三十三年一月不幸祝融の災に罹り再建竣成す。

【縣社安積國造神社】 字稻荷にあり、國造比止彌命を祀る例祭九月二十八日 大儒安積良齋は此社の祠兵安藤筑前守親重の男にて命の裔なり祠前良齋撰文八幡社の碑あり

此國を開き給ひし國造の神の御稜威はあらはれにけり

國重

【愛宕神社】 石階高く字清水臺にあり軻適突智命を祀る例祭を舊曆一月、六月の二十四日とす。

【赤木山】 町の西裏一帯の高丘は赤木に至りて斷然直角に截り下けられ宛然城古趾の如く蜿蜒たる逢瀬川の水流を下瞰し眼界轄然頗る風致に富めり、松杉森然たる所一小祠あり往古は龍燈の奇觀ありしといふ。

此鳥や安達太郎山の雲に入る

虚子

【一丁佛】 東鑑云藤原清衡、自白河至于外濱、廿餘日行程、每一丁、立笠卒都婆、其面圖繪金色阿彌陀佛像」今大町一、二、三丁目に各一基を存す

【村社那珂根神社】 大重町にあり、鎮守府將軍平良文公の嫡男相模守忠通公を祀る例祭、七月十八日神輿の渡御あり。

【曼陀羅碑】 同社境内にあり、高八尺廣三尺五寸文字磨滅只治曆三未三月云々の字を讀み得べし。

【逢瀬川】 町の北端を東流す、安積川或は大重川の別名あり古歌に。

安積山さも淺からぬ敵と見て逢瀬に勇む駒の足並

源頼義

【伊東肥前碑】 俗に仙臺佛と稱す、岩越線分岐點の傍にあり、天正十六年伊達正宗此所に苦戦し其臣伊東肥前に死す碑あり喬木之を掩ふ曇華道人敦賀高泉の贊あり

川原吊古獨傷情。一片殘碑苔芸生。後世莫愁文字滅。忠臣埋骨不埋名。

安積良齋

身を捨て、つかへし道の誠をも

こゝにのこせるあとのあはれさ

伊達吉村

草の雨石文を這ふ螢哉

破 笛

【晴門田神社】 又松木稻荷と云ふ、字晴門田にあり例祭神輿の渡御あり

【熊野神社】 晴門田にあり、境内に荒神あり、昔康平五年頼義東征の際賊あり暗夜に乘じ大軍を以て本陣を襲ふ、時に古松火氣あり大軍の状をなす、賊大に恐れ戦はずして大瀧根山に退く頼義則ち壇を設け火の神を祭る今に禰宜壇と唱ふ

【夜打川】 古戦場の口碑あり西の内の東茶臼館の麓を繞り流れて逢瀬川に注ぐ

【虎丸長者の事跡】 は今得て知るべからずと雖も西の高臺に居を構へ鐘撞堂といへるに鐘をつりて農民に朝夕の出入を知らしめ、皿沼にて日用の器物を洗へりと稱ふ、今も布目瓦等の破片を出す

【安積山】 一名額取山と云ふ。郡の西北に聳ゆる有名の古蹟にして、安女の咏世に高し。昔は浅香と書きたりしが浅香左衛門尉滅亡後安積と改む山上の眺望頗る佳なり。

孤山籠霧靄。濯濯綠愈深。振古勞歌者。寄將恨何心。

碕 允 明

末造き浅香の山の峰に生る

後九條内大臣

晝顔や虹の脚立つ安積山

蒼 郊

【安積沼】 花かつみを以て名高く、山野井村日和田にあり古歌多し。

花かつみかつ亂れ行く沼風に

(夫木集) 信實朝臣

露や安積の名にかよふならん

陸奥のあさかの沼の花かつみ

(古今集) 讀人不知

【小和瀧】 山野井村和田より約三十丁、逢隈川中の一大勝地なり。兩岸の山脚嵯峨

として奔流を壓し岩礁高く遮つて水聲清く長橋半天に架して、恰も虹霓の澗に望むが如し、亂松の藤花、斷崖の楓葉、亦人口に膾炙せり。

瀧水咽石根。鳴玉潺湲裏、清涼同晚饒、不待秋風起。

碯 允 明

【縣社隱津島神社】 喜久田村堀の内に入り、老松古杉蒼鬱として真に延喜式内の舊社たるを思はしむ、安積三社の一なり

【虚空藏尊】 喜久田村前田驛にあり、安産の神として婦人の參詣夥し。

【山の井采女の塚】 片平村字山の井、山林の北麓、叢中小碑あり蘇むして山櫻之れを蔽ふ文字概ね滅せり、沼あり方二間許、山の井是なり、水清く木葉沈む傳へ云ふ之を攪拌すれば風雨至ると、古歌多し。

安積山影副所見山野井之淺心乎吾念莫國

萬 葉 集

【靜堂】 中學校の西十町餘、大槻村字針生にあり、昔靜、義經を慕ふて此地に下りしも志を得ず遂に身を瀧に投じぬ、後人之れを愍み厚く葬り後一字を設けて靜堂靈閣俗に靜堂と稱し淵を御前淵と云ふ堂下に碑あり消磨して今讀み難し、纔に師西來意延文二年の數字を讀み得るのみ、祭日陰曆三月二十八日女道女藝の靈驗を頌し年少の婦女

參詣頗る多し。南に御前淵西に美女池、被沼、化粧坂等の舊蹟あり。

【蝦夷壇】 大槻及其周圍。此地一帯は昔豪族の住みたりけん、各所に散在する古蹟より刀劍、金環、銀環、曲玉、管玉の發掘せられたるもの少からず俗に之を蝦夷壇と云ひ傳ふ。

【淨土松】 郡山の西三里多田野村白石にあり。道路平坦にして子女尙容易に通ふを得べし。全景恰も松島の如く白皚々たる怪巖は、參差柱立して其數を知らず、翠松薜蘿其間を點綴し、白雲の岫を出つるか如く、氷山の海に漂ふか如く、天女笑ひ魔神怒り千態萬様の偉觀蓋し名狀すでからざるあり若し夫れ薰風嫩綠を吹くの日輕裝相携えて此仙寰に嘯嗽せんか、躑躅火の如く滿山を彩り、杜鵑聲々殘月を蹴つて實に斷腸の想に堪えざるものあらん。

【出磬山】 開成山の西三十丁許、山川の風光一望に入る承德二年山崩れて磬を出す、青黒奇異、僧あり字を結びてこゝに居る、後伊東社長之を片平に移し、又富田に移す、

天正十三年の兵變に寺廢れ併せて磬を失ふと云ふ。

【飯豊別神社】 下守屋妙見山の絶頂にあり神龜元年の勸請にかゝる延喜式内の舊社にして山東に御稜清水、山北に米塚の舊跡を問ふべし、楓葉の觀郡内に冠たり。

【宇奈己呂別社】 穂積村八幡にあり、俗に八幡神社と稱し延喜式内の舊社なり。

【休石鑛泉】 郡山より西四里、硫黄鑛泉にして山林の幽趣愛すべく殊に避暑の好適地とす。

【高玉温泉】 最近の發見にかゝり、弱鹽類泉にして地は本郡丸守村に屬し岩越線熱海驛の西僅に數丁、嶺は近く前後して軒に迫り五百川は直に脚下を流る、主治効能レウマチス、神經痛、胃腸病、婦人病等にして浴客頗る多し、熱海温泉は其東にして同驛の傍にあり。

【鬼ヶ城】 多田村の奥約二里、溪谷絶壁の處水晶を産すと雖も峻峭にして、容易に攀つべからず。

【耳語橋】 永盛村日出山音無川に架す、昔かつらぎの玉、都に歸りたまふ時、采女來りてこゝに別れを惜みしとぞ

東路のさゝやきの橋中絶えて

ふみたに今は通はざりけり

源 賴 義

【蛇骨地藏】 日和田、東勝寺境内にあり傳曰昔之正天皇、養老年中淺香白河二郡を領せし淺香左衛門忠繁、其家臣淺香玄蕃時郷の爲めに殺され家財を掠奪せらる忠繁の夫人菖蒲深く之れを憤り身をあさか沼に沈め大蛇となりて玄蕃一族を亡ぼし尙其怨魂村民に及び昔は人身御供の事ありしと云ふ。蛇枕石、棚木櫻など程遠からぬ所にあり。

【沼上瀑布】 是れ實に有名なる安積疏水の源泉、其風光の絶美亦賞すべし戸の口十六橋、山瀉灣の渠口、玉川の石堰、熱海の疏水橋等は其前後にあり。

猪湖隔在白雲邊。曾欲拔山來幾年。千萬禹功成就處。飛泉萬丈掛青天。

松方正義

奔流一道池中來。十丈泉懸素壁隈。恍訝劉郎歸路絕。人間又見小天臺

筠 軒

【福良】 安積西部の首邑にして若松、白河間の縣道に沿ひ北四里山瀉停車場に達す。福良灣は風光の佳を以て稱せらる、磐梯山は北方高く雲表に聳へ小平瀉は青松白砂近く湖水に映す。千手院伏龍寺は嘉祥年中眞雅僧都の開基なりと云ふ。

【布引山】 福良赤津及岩瀬郡湯本村に跨る潮北諸村より望めば東西に布を引くが如し三年へて折りてそ見たる布引と

今日たちそめていつか來て見ん

猪苗代兼載

大正三年十月三十日印刷  
大正三年十一月二日發行

編輯者

永 井 喜 作

發行所

岩代國郡山町字燈田六十八番地  
岩越線鐵道全通郡山祝賀會

印刷者

東京市京橋區木挽町二丁目十三番地  
北 村 文 重

印刷所

東京市京橋區木挽町二丁目十三番地  
中屋商店印刷所

寫眞攝影者  
高橋寫眞館

岩代國郡山町役場前  
高 橋 熊 次



不 許  
復 製

339
1
580



終

